



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '00 11月号

活躍するボランティアグループ

裏打ちの会



毎月第3水曜日の午前10時ころ、博物館ボランティアグループ「裏打ちの会」の会員が科学教室に集まります。この日が、「裏打ちの会」の例会の日になっているからです。裏打ちの会は、博物館が収蔵する近世文書の保存を目的に、虫に食われたり、糊がはがれバラバラになった文書を、和紙で裏打ちし修復する作業を10年以上にわたって行っている会です。現在、会員は25名を超え、毎月第3水曜日の1日を文書の修復作業に汗を流しています。最近は和紙すきの現場の見学を行うなど、活動の幅を広げています。

博物館では、このほかにも様々な分野で市民の方々が活動しています。19日まで開催中の「街の中の石材～地球からの贈り物」展では、地質調査会のメンバーの方々が、石材の所在調査から整理、展示まで学芸員とともに携わりました。博物館の活動は、館職員だけでなく、これら多くの市民の方たちの活躍に支えられているのです。

流域の玉石調べ

石垣、塀や植栽の基礎、玄関前のアプローチの叩きなどには、河原から採取された玉石がよく使われています。このような玉石は、どこから採取されているのか、どこの河川から運ばれたものが多いのかを、市域全域に亘り調査しました。調査は平塚地質調査会の会員有志の協力を得て行いました。その結果をここで紹介しましょう。

玉石から採取された河川を推測するには、玉石の種類と形・大きさが決め手となります。種類は流域の地質を反映しているため、神奈川県西部（主として丹沢山地）の地質と密接な関係があります。相模川系では、緑色系の凝灰岩類や火山岩類（丹沢山地起源）と、灰色系及び黒系の砂岩や頁岩（小仏山地起源）がほとんどで、ごま塩状のみかげ石（トータル岩・西丹沢起源）や黒色多孔質の玄武岩溶岩（富士火山起源）が幾分含まれています。色調としては余りカラフルではありません。

これに比べて、酒匂川の川原石は、色合いが綺麗で、緑系・白系・黒系の三色混合型です。緑色系は凝灰岩類、火山岩類、変成岩類（丹沢山地起源）であり、白系はごま塩状のみかげ石（トータル岩・西丹沢起源）、黒系は玄武岩溶岩（富士火山起源）で、ほぼ3割ずつ含まれています。相模川も酒匂川も比較的、良く円磨されています。相模川では厚木市上依知より上流から、酒匂川では山北町谷峨～松田町付近で採取されていたようです。

市域を流れる金目川やその上流の水無川の玉石は、全て秦野盆地北部の表丹沢からもたらされたものなので、緑系の凝灰岩類ばかりが目立ちます。火山岩は含まれますが、ごま塩状のみかげ石や、富士溶岩はありません。丸さもかなり角張っています。

丹沢湖を流れる酒匂川の支流である河内川では、西丹沢の緑系の凝灰岩類・結晶片岩と、ごま塩状のみかげ石からなります。丸さは角張っていて金目川・水無川の石に似ていますが、変成を受けて生じた結晶片岩が多量に含まれているという特徴があります。ごま塩状のみかげ石を意図的に排除した河内川系の石垣では、水無川系と間違

えていることがわかり、再調査を余儀なくされました。

ところで、玉石調査の途中で、相模川系の玉石だと思っていたものが、どうも相模川ではないのではないかという疑問もわかりました。緑系の凝灰岩類の中に、緑色玄武岩が多量に含まれていたからです。よく見ると、白色の石英質の岩石や、粗い砂岩や礫岩も含まれていました。こうした組成の玉石は流域のものではなく、富士川から運ばれてきたものであることがわかり、富士川の現地を調査したところ、山梨県身延町の富士川河原から現在も採取していることがわかりました。巨摩山地や御坂山地は丹沢山地と同様の時代の凝灰岩や溶岩からなり、四万十帯の砂岩や頁岩もあって、相模川と良く類似した組成を示すものでした。相模川系と判断した玉石も再調査となり、最初に相模川系とした大部分が富士川系であることがわかりました。神奈川県の河川砂利の採取が昭和39年に禁止となってから、現在では大量に富士川の玉石が利用されています。

こうして調べた結果をまとめると、市域の玉石の40%は酒匂川系のものでした。相模川系の玉石は相模川に沿った神田や八幡などに残り、金目川・水無川系の玉石も金目川に沿った地域に比較的にみられます。丹沢湖の水没地域から搬入された河内川の玉石は市全域に20%程確認できました。何気なく見過ごしている玉石からも、こうした流域の情報を得ることができるのです。



典型的な酒匂川の玉石を使った基礎（市内広川 善福寺）

秋期特別展 「街の中の石材 - 地球からの贈り物 - 」

11月19日まで開催中

平塚市博物館特別展示室 入場無料

好調！自然探偵シリーズ



落ち葉で遊ぶ自然探偵

秋です。雑木林の木々も日々色づき、強い風の日にはヒラヒラと落ち葉が舞い落ちる季節になりました。

地面に落ちた葉を拾うと、いろいろな形と色をした、いろいろな種類のものがあります。雑木林を歩いていた自然探偵は、落ち葉を集めると、それを使った観察や遊びを教えてくださいました。

皆さんも、ぜひ落ち葉と遊びに林に出かけてみてください。

ミズキのイヤリングを作ろう

カラーチャートを作ろう

紅葉と黄葉

日に透かしてみよう

落ち葉で作る顔



←11月のテーマは「落ち葉で遊ぶ自然探偵」

このほかすでに、

- 自然探偵、春の漂着物を見る
 - 自然探偵と夏の雑木林
 - 自然探偵と林のマント
 - あらしの後の自然探偵
 - 自然探偵、海へ
 - 自然探偵とカマキリ
- があります。

平塚市博物館公式ページ

紅葉を日に透かしてみよう

きれいに紅葉した落ち葉を見つけたら、太陽にかざして、日の光に透かして見てみましょう。普通に見ていた時とは、ずいぶん違って見えるはずです。細かい葉脈までがくっきりと浮かび上がり、赤や黄色の色合いも透んだものになります。日に透かして見ることを覚えておくと、紅葉を二度楽しむことができるでしょう。写真は、同じカキの紅葉ですが、左は反射光で、右は透過光で見たものです。

平塚市博物館公式ページ

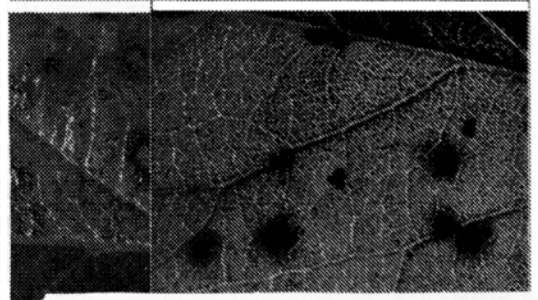
紅葉と黄葉

平塚では、高山や北国のように一面の紅葉という景色は見られませんが、よく探してみると、身近なところでもいろいろな木が色づき、秋らしさを演出しています。



イロハモミジ（写真/右）は、関東から西では、どこでも紅葉の主力の一つで、平塚でも丘陵地の所々に生えています。お寺の境内などにもよく植えられています。平塚では、12月に入ってから紅葉の盛りなので、少し霜がおりた頃に、探してみるとよいでしょう。「いろはにほへと」と数えられる、7つに切れ込みの入った葉が特徴です。

同じカエデの仲間でも、エンコウカエデは黄色く色づきます。また、平塚の丘陵地で赤く色づく木としては、コマユミ・ヌルテ・ヤマハゼなどがあります。



平塚市博物館のホームページができて4ヶ月がたちました。ページ内容は毎月更新になるので、月ごとに豊富になっています。行事や刊行物の案内や、特別展に関連したテーマの解説などの中で、毎月書き下ろしで連載され好評なのが「君も自然探偵」のページです。

「自然探偵」は平成11年夏の特別展に登場したナゾの人物。正体はわかりませんが、子供たちに身近な自然を利用した遊び、おもしろい知識や観察の方法を教えてくださいます。11月の新着は早くも7つめのテーマで、「落ち葉で遊ぶ自然探偵」。あなたも、秋の自然の中で、自然探偵団の一員になりませんか？自然探偵は、博物館のトップページ

(<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>) のメニューから「おたのしみページ」を選べばいつでも姿をあらわします。



黄色いエンコウカエデの落ち葉

赤く色づいたコマユミ

博物館カレンダー

2000年11月

1	水	☆ 特別展「街の中の石材」 (～11月19日)	特展室
		☆ 寄贈品コーナー「丹沢の岩石」 (～11月29日)	展示室
2	木	展示解説ボランティアの会	特研室
3	金	民俗探訪会「室生神社流鏝馬」	山北
4	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
		○ 特別展見学会「小松石の採石場」	野外
5	日	地質調査会	野外
		◎ 弦斎展記念野点の会	野外
9	木	石仏を調べる会	特研室
10	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「木星・土星」	屋上
11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	特研室
15	水	裏打ちの会	科学室
		地質調査会	特研室
16	木	展示解説ボランティアの会	特研室
17	金	古文書講読会	講堂
18	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
		天体観察会「しし座流星群」	函南
19	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野外
		天体観察会「しし座流星群」	函南
24	金	古文書講読会	講堂
25	土	空襲と戦災を記録する会	特研室
26	日	○ 体験学習「わらそうりを作ろう」	屋外
		古代遺跡を探す会	野外
		○ こども観察会「落ち葉の観察」	浅間町

◎村井弦斎展記念「野点の会」

夏に実施した村井弦斎展を記念し、弦斎ゆかりの村井公園で茶会を催します。野点、琴・尺八演奏、作家火坂雅志氏サイン会、秋の味覚無料配布など■11月5日(日) 10時30分～15時■村井公園(平塚市八重咲町22)

○体験学習「わらそうりを作ろう」

わら打ち、縄ないから始め、そうりを一足作ります■11月26日(日) 10時～16時■博物館科学教室■往復はがきで11月17日までに博物館へ■定員30名(多数の場合抽選)

○こども観察会「落ち葉の観察」

イチヨウやケヤキの紅葉、黄葉を観察します■11月26日(日) 9時30分～12時■浅間緑地(平塚市浅間町)■往復はがきで11月10日までに博物館へ■定員30名(多数の場合は抽選)

2000年12月

1	金	古文書講読会	講堂
		☆ 寄贈品コーナー「結びのわざ」 (～12月27日)	展示室
2	土	○ みんなで調べよう「身近な林調べ」	科学室
3	日	地質調査会	野外
7	木	展示解説ボランティアの会	特研室
8	金	古文書講読会	講堂
9	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	特研室
		☆ プラネタリウム「2001年の天体現象」 (～2月4日)	プラネ室
10	日	民俗探訪会「学習会」	講堂
13	水	地質調査会	特研室
14	木	石仏を調べる会	特研室
15	金	古文書講読会	講堂
17	日	○ 体験学習「お飾りを作ろう」	講堂
		◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野外
20	水	裏打ちの会	科学室
21	木	展示解説ボランティアの会	特研室
22	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「アルゴル」	屋上
		天体観察会「こくま座流星群」	屋上
24	日	古代遺跡を探す会	野外

*12月28日～1月4日は休館となります

☆寄贈品コーナー「丹沢の岩石」

東丹沢から西丹沢に見られるいろいろな岩石を展示します■11月1日(水)～11月29日(水)

☆プラネタリウム「よいの明星」

宵空で輝きを増してきた金星の動きを解説します■12月3日(日)まで■土・日曜日の11時と14時■100円

◎星を見る会「木星・土星を見よう」

木星の衛星や表面のもよう、土星の環を望遠鏡で観察します。寒さを防ぐ服装で。■11月10日(金) 19時～20時30分■博物館科学教室・屋上

◎ろばたばなし

展示室の復元民家いろりばたで、民話を聞きましょう■11月19日(日) 13時30分、15時■1階展示室

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から自然のふしぎを探ります■11月11日(土)、12月9日(土) 9時30分～11時■平塚虹ヶ浜海岸■初めての方は往復はがきで申し込んでください。集合場所等を連絡します。

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

あなたと博物館 25巻 8号 通算286号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum